

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク馬車道保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	〒231-0006 横浜市中区南仲通4-47 JSEビル
設立年月日	平成21年12月 1日
評価実施期間	平成24年7月～平成24年12月
公表年月	平成25年1月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

【施設の特徴】

1.立地条件

アスク馬車道保育園は、みなとみらい線馬車道駅から徒歩2分の官公庁街に近い5階建てのビルを園舎とし、定員90名の園である。近隣には観光施設、文化施設が立ち並び、横浜スタジアムや赤レンガ倉庫周辺の公園は、子ども達の日常の散歩コースになっている。

2.多様な保育プログラム

設置法人から派遣される専門講師による体操教室、英語プログラム、リトミックや職員による幼児教育プログラム、クッキング保育等が、子どもの発達に応じて計画的に取り入れられ、日常の保育活動にも生かされている。これらのプログラムは、楽しむ心や学ぶ楽しさを育むプログラムとなっている。

【特に優れていると思われる点】

1. 地域資源を活用した豊かな社会体験

園周辺は、文化施設や観光資源が多くある地域なので、「知らない人について行かない」など子どもの安全には十分に配慮して、神奈川歴史博物館や横浜公園、赤レンガ倉庫周辺、山下公園、日本丸メモリアルパークなどを日常の散歩コースとしている。また、中区民まつりや消防出初式を見に行っている。さらに、自然に触れる機会を大切にして、バスや地下鉄を利用して舞岡公園へ芋ほりに行ったり、遠足では野毛山動物園や根岸森林公園に行くなど、地域資源を活用して園外活動に取り組み、子どもの体験を豊かなものに行っている。

2. 地域との交流を推進

官庁街のため地域との交流が難しい地域であるが、商店街の方と日常的に挨拶を交わし、ハロウィンなどの園の行事に協力を得ている。また、中区の子育て支援「グランマ保育園事業」に参加し、地域の親子に絵本の貸し出しを行っている。子ども達は近隣の老人ホームを訪問し、絵を描いたり歌を唄うなどお年寄りと交流したり、仲尾台中学校の吹奏楽部が保育園に演奏に来るなど、地域との関係づくりを積極的に行っている。

【改善が期待される点】

1.職員一丸となった目標の実現を

経営者が移行し、職員の入れ替わりも激しく、落ち着かない職員集団の中で、保育づくりも困難な状況が続き、保護者は保育園に対して不安な思いや不信感を募らせていましたが、新体制になって次第に回復してきました。この時期、園目標「笑顔と元気 みんな一緒にはじめよう」に込められた <子ども、保護者、職員が園生活での経験を共感・共有して、相手を思いやる気持ちや、自分を信じることのできる心の育ちを大切にしていきたい> との深い思いについて確認し合い、職員一人一人が自己の保育を振り返り、園目標の実現に向けて意思統一を図ることが望まれます。

さらに、園の中長期計画を全職員に周知して、統一見解を持ってサービスにあたることが期待されます。

2.保育の質を高め合う努力を

保護者アンケートでは、「あなたのお子さんが大切にされているか」については16%、「話しやすい雰囲気や態度であるか」については18%、「送り迎えの際お子さんの様子に関する情報交換」については18%の否定的回答が寄せられています。実際、調査日の観察で、職員の子どもへの対応は、職員のモチベーションにより大きな差があるように見受けられました。

4階建ての建物の構造上、各階でクラスが独立しており、職員同士の交流も少なく、他のクラスの保育の様子を見て気付いたり、良い所を認めて高め合う機会が少ない環境にあると思われます。子どもの発達過程に応じた職員の関わり方や適切な対応について全職員で十分に話し合う機会を持ち、職員同士が育ち合い、子どもの心に寄り添った保育を追求されることが求められます。

3.施設面の改善

保護者から、「保育室内の壁紙のはがれ、屋上園庭の床材の浮きや大型遊具の破損など、施設面で改修が必要」との意見が出ています。また、調査の結果不審者侵入防止対策が必要と思われる箇所もあります。設置法人に図り、早急な対策が求められます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- 設置法人の基本方針「子どもの自ら伸びようとする力」「後伸びする力」「五感で感じる保育の充実を目指す」をもとに、園目標「笑顔と元気 みんながいっしょにはじめよう」を設定し、それらは、利用者を尊重したものである。
- 業務マニュアルに、子どもへの対応や言葉遣いについて記載され、職員は入社時研修で学んでいる。毎月1回設置法人から派遣される発達支援担当者の指導を受けたり、他園研修で、年齢や発達に応じた叱り方や声のかけ方を学び、全職員が共通認識を持つようにしている。
- 職員は子どもの人格を尊重し、注意をする時は1対1で周りの目に触れない場所で、子どもにわかり易い言葉で話をしている。プライバシーを守る場所として、廊下や4階の別室を使用している。
- 全職員は個人情報に関する守秘義務の意義や目的について入社時に研修を受け（実習生にはオリエンテーションで説明し）、誓約書を提出している。その後は、年度末の職員会議で確認し合っている。保護者には、入園時に、ホームページへの子どもの写真掲載など個人情報の取り扱いについて説明し、書面で確認を取っている。
- 一斉遊びのグループ分けや、散歩などの整列、遊びや持ち物など性別による区別はせず、行事の役割は子ども達の話し合いによって決めている。
- 性差について、職員同士が無意識に固定観念で保育をしていないかを職員間で注意し合い、職員会議で確認し合っている。
- 虐待防止マニュアルがあり、職員は虐待の定義や早期発見のポイントについて研

	<p>修で学び、周知している。日々の子どもの観察や、保護者が話しかけやすい雰囲気づくりを心がけ、虐待の早期発見や予防に努めている。虐待が明白になった場合は、設置法人へ連絡すると共に横浜中央児童相談所など関係機関に連絡し、相談する体制が整っている。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 絵本、おもちゃ、教材などは子どもの手の届く棚に置き、子どもの興味に合わせて季節ごとに入れ替えをおこなっている。 • 一斉活動ではルールのある遊びを取り入れ、みんなで遊ぶ楽しさや満足感を大切にして、職員は丁寧にルールを説明し、子ども達は納得して遊んでいる。自由遊びの時間の個人の興味・関心を大切に受け止め、発展させて取り組めるよう声をかけたり、やむなく中断しても、また継続して遊べるよう棚の上に保管している。 • 園の植込みやプランターで、カボチャ、チューリップ、ひまわり、サルビア、朝顔を育てている。夏の間、かぶと虫と鈴虫を飼育して、死後も来年の孵化を楽しみに、命の大切さを教えている。 • 園外活動では、博物館、公園などの社会資源を活用し、街路樹や植え込みの草木、公園の花壇から、四季の移り変わりや身近な自然を感じるよう配慮している。 • 天気の良い日は散歩など園外活動を積極的に行い、真夏は屋上やテラスでプール遊びを行っている。0歳児には午睡後も散歩の機会をもっている。 • 法人系列の専門講師によるクラス別のリトミックや体操教室、英語教室を行い、子どもたちは全身を使って自由に表現活動を楽しんでいる。また、子どもの発達に合わせ、素材や手法を考慮し、絵の具、マーブリング、ひっかき絵などの表現活動に取り組んでいる。 • トイレトレーニングは保護者と連携を取り、年齢に縛ることなく、一人一人の子どもの発達状況に合わせて実施している。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保育課程は、年度末の職員会議で話し合い、子どもの最善の利益を第一義に捉え、保育の基本方針や保護者の就労状況を考慮して作成している。保護者には、新入園時オリエンテーションや、年度初めの保護者会で年間計画とともに説明している。 • 年齢別に作成する指導計画は、子どもたちの発想や意見を取り入れ、活動の展開を見込んで、柔軟性を持たせて作成している。指導計画は子どもの育ちや意欲、取り組み過程などについての視点で振り返り、子どもの様子によっては無理をせず次月も引き続き取り組んでいくなど、評価・反省を計画に反映させている。 • 入園前に園長または主任、職員が、保護者（子ども同伴）と面接し、子どもの遊ぶ様子を観察しながら、生育歴や既往症、就労予定、家庭状況、子育てで心配なことなどを聴き取り、児童健康調査表、子どもの状況について、離乳食進行面談票、食物アレルギー確認票、健康診断書などを提出してもらい、事前に把握している。得られた情報は、個人別にファイリングして事務所に保管し、全職員は必要に応じていつでも見ることができ、入園後も引き続き追記して管理し、日常の保育に活かしている。 • 子どもたちの生活の連続性の視点から、0～2歳児は、個別の連絡ノートに必要事項と子どもの様子を詳細に記載し、保育園と保護者との連携を密にしている。3歳児以上の希望者は、自由形式のノートを使用している。その他、クラス毎に保護者への連絡事項は、クラスノートに書いて保護者に知らせている。 • 特に配慮を要する子については、中区福祉保健センターや、中部地域療育センター、設置法人の発達支援担当者、中央児童相談所のアドバイスを受けるなど、連携体制があり、また、職員は外部の研修にも参加して対応を学んでいる。 • 障がい児や要支援児の個別指導計画を作成し、保育の振り返りや職員会議で個別ケースについて状況を伝え、話し合う体制ができている。 • 職員は、障がいの特性を理解して、できるだけ他の子どもと同じように接し、行

	<p>事への参加も本人と保護者の意向を確認し、本人が楽しめることを大切にしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アレルギーのある子どもには担任と栄養士が保護者と面談して、除去食申請に対する主治医意見書に従い、除去食・代替食を提供している。誤食事故を防ぐためにトレーの色を変え、名前とアレルギー食材を明記し、職員は、調理担当者から受け取る際と配膳時にアレルギーチェック表を見て、職員同士で確認し合っている。 • 入園時に外国籍の保護者に、文化や生活習慣、宗教上で配慮すべきことなどを確認して対応している。 • 業務マニュアルが整備されており、子どもの健康、衛生、安全面の管理をしている。 • 保護者からは、送迎時や年2回の個人面談、連絡帳、行事ごとのアンケートなどで個別に意向を聞き、また年3回の保護者会やクラス懇談会で意向や要望を聞き、指導計画に反映させている。 • 入園時に配付する「入園のご案内」（重要事項説明書）に苦情解決窓口として設置法人の苦情受付先と中区福祉保健センターの連絡先を明記している。苦情対応マニュアルがあり、要望・苦情の受付担当者は主任であること、第三者委員の氏名、連絡先を、玄関に掲示している。 • 警備会社と防犯契約を結び、防犯カメラと通報ベルを設置している。玄関は電子錠で施錠されており、モニターで来訪者を確認して開錠している。散歩や園外活動では、知らない人について行かない、写真を撮られないなど、お防犯対応を子ども達に伝えている。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 夏祭りのポスターを園外に掲示し、卒園児にもお知らせして招待している。 • 近隣の商店には挨拶を励行し、散歩時の声掛けやハロウィンなどの行事に協力してもらっている。 • 年2回、仲尾台中学校の吹奏楽部が来園し演奏を聞き、本町小学校より運動会のお知らせが来たり、運動会に本町小学校の体育館を借りるなど交流がある。 • 中区グランマ保育園事業に参加し、地域の親子に向け絵本の貸し出しを行っている。 • 幼保小連携会議に参加し、5歳児は中区保育園交流事業の駅伝に参加している。また、近隣の老人ホームを訪問し、絵を描いたり歌を唄うなどお年寄りと交流し、感謝の手紙をもらっている。 • 中区区民祭り「ハローよこはま」や山下公園での消防出初式など地域の行事に参加して、また、学童の説明会やバザーのお知らせを掲示するなど、地域の活動を知らせるよう配慮している。 • ボランティア受け入れ・実習生の受け入れのためのマニュアルがあり、実習生受け入れ時の意見や感想を園の運営に反映させている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 園のパフレットを中区役所や地域子育て支援拠点「のんびりんこ」に置き、設置法人のホームページに写真つきで園の情報を掲載し、期ごとに更新している。 • 業務マニュアル内に就業規則があり、職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがあり、連絡先を職員の休憩室に掲示している。 • 法人としての決算書・運営状況・リサイクルやエコへの取り組みについては、ホームページに掲載している。 • 設置法人で収集・分析した重要な情報は、園長会議で伝達され、全職員で共有している。園運営上の重要事項や、昨年度の第三者評価を受審する中で浮かび上がった課題は、職員会議で職員に周知して改善に向け取り組んでいる。 • 設置法人で、運営について業界関連機関や専門家などから意見を収集し、将来を

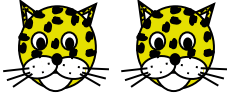

	<p>見据えた新たな運営やサービスプロセスについて常に検討している。また、それに見合った人材の育成を図っている。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 園長は、園運営に必要な人材や配置状況が不足の場合は、設置法人に要請して人材補充を行っている。 • 設置法人が作成している人材育成計画があり、階層別研修のプログラムが組まれている。職員は年間自己目標を立てて研修に参加し、半期に1度振り返り、同時に園長は個別面談を行って目標の達成度を把握し、研修成果について確認し、必要な研修の見直しを行っている。 • 園長は、年2回の面談以外にも随時職員と個別に面談し、職員の満足度・要望を確認している。メンタルヘルスチェックを受けたり、必要に応じ勤務希望調査書などを配付して、さらに意向を確認している。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念「子どもの自ら伸びようとする力」「後伸びする力」「五感で感じる保育の充実を目指す」をもとに、園目標「笑顔と元気 みんながいっしょにはじめよう」を設定し、それらは利用者を尊重したものである。 ・保育課程は、年度末に子どもの最善の利益を第一義に捉え、保育の基本方針や保護者の就労状況を考慮して作成しているが、地域の環境を反映しておらず、一部項目にそぐわない内容記述がある。保護者には、新入園児オリエンテーションや、年度初めの保護者会で年間計画とともに説明している。 ・年齢別に年間指導計画・月間指導計画・週案を作成し、計画には活動の展開を見込んで、柔軟性を持たせて作成している。運動会の種目や、お遊戯の選曲、振り付け、異年齢保育の遊びなどについて、子ども同士で話し合い、意見を反映させている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園目標に、子ども、保護者、職員が園生活での経験を共感・共有して、相手を思いやる気持ちや、自分を信じていることのできる心の育ちを大切にしていきたいとの思いが込められていることを、全職員に周知されることが望まれます。 ・保育課程には、社会資源豊富な地域の環境を生かした活動など、園独自の取り組みを反映させることが望まれ、また、非常勤職員にも保育課程を説明し、全職員で共有して保育にあたることが求められます。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に保護者と子ども同伴で面接し、子どもの様子を観察しながら、生育歴や既往症、就労予定、家庭状況、子育てで心配なことなどを聴き取り、児童健康調査表、お子様の状況について、離乳食進行面談票、食物アレルギー確認票、健康診断書などを提出してもらい、事前に把握している。 ・慣れ保育が保護者と子どものために有効であることを説明し、個々の状況に応じて対応している。0、1歳児の新入園児には特定の保育者との関わりを大切に、慣れるまで主担当を決めて保育している。 ・0～2歳児は個別の連絡ノートで、3歳児以上の希望者は自由形式のノートで、園と保護者との連携を密にしている。また、幼児クラスはクラスノートに連絡事項を書いて、保護者に知らせている。 ・新入園児を迎えても在園児が不安なく過ごせるように、園長やフリーの職員、また前年の担任が一定期間フォローしている。 ・週案や月間指導計画はクラス毎に担任が意見交換して作成し、振り返りを行って、子どもの発達状況に応じて見直しを行っている。 ・送迎時や個人面談、連絡帳、行事ごとのアンケート、また年3回の保護者会やクラス懇談会で保護者の意向や要望を聞き、指導計画に反映させている。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-3 快適な施設環境の確保



・日々の清掃はマニュアルに沿って当番制で行われ、清潔に保たれている。

・各保育室に空気清浄機、扇風機、エアコンと加湿器があり、朝や午睡後は窓や非常口を開け換気している。室温の目安は夏期27度、冬期は22度であるが、活動内容によって、職員が適宜体感で管理している。

・建物の構造上、3、4歳児の部屋以外は、窓はあるが採光は望めず、電灯照明で補完している。

・各保育室は独立しているが、3、4歳児は一つの大きな保育室で、活動によってカーテンで仕切ったり、職員の立ち位置を工夫して子どもの視線を集中できるようにしたり、職員の連携で活動内容や歌の時間をずらして、騒音にならないように配慮している。

・各保育室は、マット・机でコーナーを作ったり柵で仕切ったりして、小集団で活動できるようになっている。

・0、1歳児の食べる・寝る空間は分け、その他は同室で行っているが、食後手早く清掃をして、午睡空間を作っている。

・3、4歳児の部屋で、早朝・延長保育・土曜日は合同で保育を行い、お誕生日会などの行事でも異年齢の子どもたちが交流している。また、5階の研修室も活動により使用することができる。

<コメント・提言>

・日々の清掃はマニュアルに沿って行われていましたが、チェック表の活用で徹底管理することが望まれます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



・0～2歳児と特別に課題のある幼児については、毎月個別指導計画を作成し、子どもの発達状況に合わせ、職員会議で柔軟に見直しをしている。指導計画の重要部分の見直しについては、保護者と連携をとり了承を得ている。

・年度末に、保育所児童保育要録を小学校に送付している。

・入園後の成長発達は、児童票・健康調査票・身体測定表に記入し、入園時の面接シートと合わせ個別ファイルとして、事務室書庫に施錠保管し、必要に応じて職員はいつでも見ることができる。

・年度末には児童票などの記録をもとに、次の担任に子ども一人一人の重要事項を申し送りしている。

評価分類

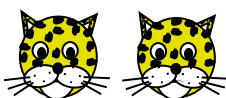
評価の理由（コメント）

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・園舎内はエレベーターと身障者用のトイレを設置している。
- ・特に配慮を要する子については、中区福祉保健センターや、中部地域療育センター、設置法人の発達支援担当者、中央児童相談所のアドバイスを受けるなど、連携体制があり、また、職員は外部の研修にも参加して対応を学んでいる。
- ・障がい児や要支援児の個別指導計画を作成し、保育の振り返りや職員会議で個別ケースについて状況を伝え、話し合う体制ができている。
- ・職員は、障がいの特性を理解して、できるだけ他の子どもと同じように接し、行事への参加も本人と保護者の意向を確認し、本人が楽しめることを大切にしている。
- ・虐待防止マニュアルがあり、職員は虐待の定義や早期発見のポイントについて研修で学び、周知している。日々の子どもの観察や、保護者が話しかけやすい雰囲気づくりを心がけ、虐待が明白になった場合には、設置法人へ連絡すると共に関係機関に連絡し、相談する体制が整っている。
- ・アレルギーのある子どもには担任と栄養士が保護者と面談して、除去食申請に対する主治医意見書に従い、除去食・代替食を提供している。誤食事故を防ぐためにトレーの色を変え、名前とアレルギー食材を明記し、職員は、調理担当者から受け取る際と配膳時にアレルギーチェック表を見て、職員同士で確認し合っている。
- ・入園時に外国籍の保護者に、文化や生活習慣、宗教上で配慮すべきことなどを確認して対応している。英語プログラムや絵本、運動会での万国旗作り、地図や写真を用いて外国文化への興味や関心を広げている。意思疎通が困難な保護者には、日本語のできる他の外国籍の保護者が通訳したり、与薬票などの英語版書類の用意があり対応している。

I-6 苦情解決体制




- ・苦情対応マニュアルがあり、要望・苦情の受付担当者は主任であること、第三者委員の氏名、連絡先を、玄関に掲示している。
- ・入園時に配付する「入園のご案内」（重要事項説明書）に苦情解決窓口として設置法人の苦情受付先と中区福祉保健センターの連絡先を明記している。
- ・園単独で解決困難な問題に対し、設置法人の担当部署、中区役所福祉保健センター子ども家庭支援課などと連携し対応できる仕組みができている。
- ・行事後のアンケートや個人面談、連絡ノート、送迎時の保護者との会話で収集した様々な意見や要望は、園長に報告して迅速に対応すると共に、職員会議や回覧で全職員に周知している。
- ・苦情・要望はクレーム受理票に記録し、データの蓄積がなされ、設置法人とともに、原因の究明や対応にあたっている。

<コメント・提言>

- ・第三者委員を保護者に紹介して顔の見える関係を作り、相談し易い雰囲気を伝えることが望まれます。また、年度末には第三者委員も含めた話し合いの場を持つなど、第三者委員を交えた苦情解決の対応が望まれます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="193 226 528 259">Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・絵本、おもちゃ、教材などは子どもの手の届く棚に置き、子どもの興味に合わせて季節毎に入れ替えをしている。・一斉活動ではルールのある遊びを取り入れ、みんなで遊ぶ楽しさや満足感を大切にしている。また、自由遊びの中の個人の興味・関心を大切に受け止め、発展させて取り組めるよう声をかけたり、やむなく中断しても、また遊べるよう棚の上に保管している。・カボチャ、チューリップ、ひまわり、サルビア、朝顔を栽培し、かぶと虫と鈴虫を飼育して、命の大切さを教えている。・園外活動では、博物館、公園などの社会資源を活用し、街路樹や植え込みの草木、公園の花壇から、四季の移り変わりや身近な自然を感じるよう配慮している。・運動会終了後から、3～5歳を縦割りで3～4グループを作り、週1回午前中の活動と給食を共にして、異年齢の関りを深めている。・専門講師によるクラス別のリトミックや体操教室、英語教室を行い、また、子どもの発達に合わせて素材や手法を考慮し、絵の具、マープリング、ひっかき絵などの表現活動に取り組んでいる。歌を口ずさみ、ミルク缶で作った太鼓、ペットボトルのガラガラなど、音の出る手作りおもちゃでリズムをとり、遊んでいる。・天気の良い日は散歩など園外活動を積極的に行い、夏は屋上やテラスでプールを行っている。0歳児は午睡後も散歩に行くことがある。 <p data-bbox="724 1010 970 1043"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none">・屋上が整備されて、本来の目的である園庭として使用可能な状況となることが望まれます。・発達過程に応じた職員の関わり方や適切な対応について全職員で十分話し合う機会を持ち、どの職員も笑顔で子どもに温かい気持ちで接することが望まれます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・給食の献立には旬の食材を用い、月に1度季節や行事に合わせた特別メニューを取り入れている。
 - ・職員は、その日の子どもの体調等を考慮しながら、子ども一人一人の摂取量や好き嫌いを把握して盛り付けの量に配慮し、子どもの食べるペースを尊重して完食の喜びを味わえるようにしている。授乳は、登園前の授乳時間を保護者に確認し、授乳時は担当職員が子どもを抱っこして、ゆったりと安心できる環境で飲ませている。（冷凍母乳も可）
 - ・調理担当職員はクラスを廻り、配膳と食事中の子ども達の様子を見て、園長、主任、クラスリーダーとともに毎月の給食会議で、献立や調理法、行事食、食育、食中毒などについて討議している。
 - ・乳幼児突然死症候群防止ため、うつ伏せ寝はさせず、0歳児には10分毎に、1歳児には15分毎に呼吸チェックを行っている。
 - ・年長児は就学に向け、秋頃より午睡を徐々に無くしている。
 - ・トイレトレーニングは保護者と連携を取り、一人一人の子どもの発達状況に合わせ実施している。
 - ・排泄に失敗した子どもの気持ちを察することが大切なことを、職員間で共有している。着替えは他の子どもの目に触れにくい別の場所で行うなど配慮している。
- <工夫している事項>
- ・年1回土曜日開催で給食試食会を行ない、また各クラス1組ずつ保育参加を受け入れて給食を食べてもらう機会を設け、給食について理解を深めている。
- <コメント・提言>
- ・園の人気献立などのレシピを、保護者が自由に持ち帰れるようにすることをお勧めします。

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[健康管理]



- ・健康マニュアルに基づき、登園時に保護者から家庭での状況を聞き、一人一人の健康状態を把握している。既往症は、入園後は罹患の都度、情報を得て、児童票に追記して職員で共有している。
- ・健康診断は年2回の内科健診と、年1回の歯科健診、身長体重測定は毎月行い、個人ファイルに保管している。健康診断、歯科健診後は、「健診結果のお知らせ」として保護者に伝えている。
- ・歯磨き指導は、子どもに歯がはえ始めたら開始し、職員が仕上げ歯磨きを行っている。
- ・感染症・食中毒対応マニュアルがあり、感染症についての知識、対応方法が明記されている。登園停止基準などは、「入園のご案内」に記載し、入園時に保護者に説明し、周知している。
- ・保育中に感染症の疑いが認められた場合は、速やかに保護者へ連絡をし、状態を観察しながら別室に隔離している。
- ・感染症の園内の発生状況は、保護者の目につくように、事務所前の入退出カード機の前に掲示している。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルがあり、職員は入社時に研修を受け、その後は毎年年度末の職員会議で確認を行っている。マニュアルは各園の意見を基に園長会議で見直しが行われ、設置法人が改定後、職員会議で報告、確認をして全職員が共有している。
- ・マニュアルに基づき、当番が定期的に清掃している。職員用の衛生チェック表があり、職員は勤務開始前に記入している。



Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[安全管理]





- ・安全管理マニュアルがあり、全職員は周知している。設置法人が「安全委員会」を設けており、他園職員による安全点検を定期的に行っている。
- ・保護者の緊急連絡先や子どものかかりつけの医療機関の連絡先を、個人ファイルに入れて事務所で管理し、緊急時に備えている。
- ・月に1度、避難・消火・通報訓練を行い、保護者には、地域の避難場所と、非常時は災害伝言ダイヤルを利用する事を年度初めの保護者会で伝えている。近隣にあるAEDの設置場所を周知し、職員13名が救命救急法とAEDの講習を受けて、非常時に備えている。
- ・事故やケガの発生に備え、近隣の医療機関の連絡先を事務所に掲示している。保育中のケガは、清潔に保ち保護者へ口頭で説明している。職員間は、伝達ノートと保育日誌に記録し、アクシデントレポートに事故やケガの対応について詳細に記録し、職員会議等で原因究明に努め、再発防止策を検討している。
- ・警備会社と契約し、防犯カメラと通報ベルを設置している。玄関は電子錠で、モニターで来訪者を確認して開錠している。

<コメント・提言>




- ・一部保育室に転倒落下の危険があるラック、棚上の備品があり、また、外部からの侵入が懸念される箇所がありましたので、早急な安全対策が求められます。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルに、子どもへの対応や言葉遣いについて記載され、職員は入社時研修で学んでいる。毎月1回設置法人から派遣される発達支援担当者の指導を受けたり、他園研修で、年齢や発達に応じた叱り方や声のかけ方を学び、全職員が共通認識を持つようにしている。 ・職員は子どもの人格を尊重し、注意をする時は1対1で周りの目に触れない場所で、子どもに解り易い言葉で話をしている。プライバシーを守れる場所として、廊下や4階の別室を使用している。 ・全職員は個人情報に関する守秘義務の意義や目的について入社時に研修を受け（実習生にはオリエンテーションで説明し）、誓約書に署名している。その後は、年度末の職員会議で確認し合っている。保護者には、入園時に、ホームページへの子どもの写真掲載など個人情報の取り扱いについて説明し、書面で確認を取っている。 ・一斉遊びのグループ分けや、散歩などの整列、遊びや持ち物など性別による区別はせず、行事の役割は子ども達の話し合いで決めている。性差について、職員同士が無意識に固定観念で保育をしていないかを職員間で注意し合い、職員会議で確認し合っている。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットやホームページに運営理念、保育方針を明示し、入園説明会や保護者会で保護者に説明している。 ・日々の子どもの様子を0～2歳児は個別の連絡ノートで、3～5歳児はクラスノートで伝えている。職員間では伝達ノートに記入し、引き継ぎ者を明確にし、保護者への連絡漏れがないようにしている。 ・クラス別懇談会を年3回開催し、開催は、アンケートの結果、保護者の出やすい平日の夕方に行っている。また、年2回個人面談週間を設け、面談日は保護者の都合に合わせている。相談内容は保護者との面談記録に記載し、継続的なフォローを行っている。 ・「園だより」「クラスだより」の他「保健」「リトミック」「体操」「英語」などの便りを毎月発行している。 ・保護者の要請対応は園長が行い、保護者同士の掲示板による不要になった子ども用品のプチ交換会の仲立ちをしたり、謝恩会の話し合いに保育室を提供している。 ・保育参観週間を設定し、その他に希望によりいつでも参観できる事を伝えている。園の行事には保護者ボランティア、お手伝いを募り保育に参加し易い環境を作っている。 <工夫している事項> <ul style="list-style-type: none"> ・行事運営について事前にアンケートをとり意向を確認する等、保護者とコミュニケーションをとる努力をしている。 <コメント・提言> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートによれば、園目標、園の方針が十分に保護者に伝わっていないことが伺われます。保護者会で分かりやすく説明し、園だよりの記載の仕方を工夫するなどして、園の方針と子どもの育つ姿を保護者に分かりやすく伝えることが望まれます。 ・子ども用品の交換会など保護者の自主的な活動から、さらに保護者会立ち上げへの支援が望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="188 237 710 297">Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会など地域との交流がなく、育児相談の案内も掲げていないが、山下公園のコンビニエンス・ストアに運動会などのポスターを貼らせてもらい、地域の子どもの参加を呼び掛けたり、中区グランマ保育園事業（区の子育て支援事業）で絵本を借りに来る方や見学者から、離乳食などの相談を受けることがある。 ・中区の幼保小連携会議や中区の園長会に出席し、地域の子育て支援ニーズについて検討している。 ・地域住民に向けて、子育てに関する講習・研修などは行っていない。 <p data-bbox="724 551 970 577"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の行事を地域に開放し、積極的に育児相談を行うと共に、グランマ保育園事業などで訪れる地域の方から施設への要望を聞くなど、地域の子育てニーズを把握する取り組みが期待されます。 ・地域住民に向けて、保育園の専門性を生かした子育てや保育に関する講習・研修会講習会などの企画が期待されます。
<p data-bbox="188 913 710 974">Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な育児相談は行っていないが、グランマ保育園事業で、絵本を借りに来る方の育児相談に応じている。 ・商業地域で自治会がなく、地域に回覧はできないが、中区役所や中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」に園のパンフレットを置いている。 ・関係機関との連携の担当者は園長で、中区こども家庭支援課、医療機関、中部地域療育センター、中央児童相談所と連携できる体制がある。 ・必要な関係機関・地域の団体等をリスト化して事務所内に掲示している。 <p data-bbox="724 1227 970 1254"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談などの子育て支援サービスを積極的に行い、園の情報を地域に知らせる工夫が期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の夏祭りに、見学者や卒園児を招待している。近隣の商店には挨拶を励行し、散歩時の声掛けやハロウィンなどの行事に協力してもらっている。 ・年2回、中尾台中学校の吹奏楽部が来園し演奏を聞き、本町小学校より運動会のお知らせが来たり、運動会に本町小学校の体育館を借りるなど交流がある。 ・中区グランマ保育園事業に参加し、地域の親子に向け絵本の貸し出しを行っている。 ・近隣の県立歴史博物館、開港記念館、日本丸、ランドマークタワー、ハッピーローソン、山下公園、横浜公園、野毛山動物園、山下消防署、海上保安庁などの施設を散歩やミニ遠足に活用している。 ・幼保小連携会議に参加し、5歳児は中区保育園交流事業の駅伝に参加している。また、近隣の老人ホームを訪問し、絵を描いたり歌を唄うなどお年寄りと交流し、入居者より感謝の手紙をもらっている。 ・中区民祭り「ハローよこはま」や山下公園での消防出初式など地域の行事に参加して、また、学童の説明会やバザーのお知らせを掲示するなど、地域の活動を知らせよう配慮している。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットを中区役所や地域子育て支援拠点「のんびりんこ」に置き、設置法人のホームページに写真つきで園の情報を掲載し、期ごとに更新している。 ・中区すくすくモバイル、「まみたん園ナビ」に保育園情報を提供し、中区民祭りに参加して園のポスターを掲示している。 ・利用希望者の問い合わせには、随時園長が対応し、パンフレットに沿って説明し、見学もできることを伝えている。 ・見学は、可能な限り利用希望者の都合に合わせているが、お子さんと同じ年齢の子どもの保育を見てもらえるよう提案し、土曜日の見学も受け入れている。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れマニュアルがあり、ボランティア受け入れの基本的な考え方・方針について職員は周知しているが、受け入れの実績は無く、受け入れなどの担当も決めていない。 ・実習生の受け入れに当たっては職員、保護者にその意義を説明し、専門学校より1名、実習生を受け入れた。 ・受け入れの窓口は園長で、育成は主任と担当クラス職員が行い、オリエンテーションで園の基本方針や、守秘義務、配慮事項などを伝えている。 ・学校側の要望に沿った実習プログラムを立て、実習経過は実習生活動記録に残している。終了後は職員と反省会を開き、感想文の提出を求め、意見は職員で共有して保育に活かしている。 <p>＜コメント・提言＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを受け入れて、ボランティアの気付きや意見を、園のサービスの質の向上や施設運営に役立たせる前向きな取り組みが望まれます。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="185 230 504 259">V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、園運営に必要な人材や配置状況が不足の場合は、設置法人に要請して人材補充を行っている。 ・設置法人が作成している人材育成計画があり、階層別研修のプログラムが組まれている。職員は、入職時の代表研修で法人理念について話を聞き、冊子「明日への保育」を読んで、求められる職員像を周知している。 ・職員は年間自己目標を立てて半期に1度振り返り、園長は個別面談を行って職員一人一人の目標の達成度を把握し、研修成果について確認し、必要な研修の見直しを行っている。職員は研修後レポートを提出して職員会議で報告し、研修の成果を保育で活かしている。 ・業務にあたっては、保育経験や勤務態度から職員と非常勤職員の組み合わせなどを考慮して、シフト表を作成している。 ・非常勤職員にも、職員会議や園長会議などの必要事項は文書または口頭で知らせており、文書には確認サインをしている。 ・クラスリーダーが非常勤職員に保育の方法や補助の仕方など必要な指導を行ない、また園長が面談をして意見要望を聞いている。
<p data-bbox="185 913 531 943">V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、年3回行われる自己査定と園長との面談で、具体的なサービスの見直しを含め自己評価を行っている。 ・設置法人傘下の毎週火曜日開催の園長会議などでサービスの工夫・改善について話し合われた内容は、職員会議で検討されている。また、系列園同士の連携と協力体制が整っており、エリア内の研修会や交換現場研修を行う機会を設け系列園で育ちあう関係が築かれている。保育技術の指導を横浜中部地域療育センター、中央児童相談所、設置法人の外部専任講師、発達支援担当者から受ける仕組みがある。 ・保育課程、年間指導計画の期毎、月間指導計画、週案、保育日誌は定型化され、それぞれ振り返りや評価・反省の記入欄が設けられている。職員は、前月の振り返りをもとに子どもの成長に合わせて次の目標を立て、自己目標の達成度と合わせて評価し、計画に反映させ、継続して改善に取り組んでいる。 ・職員会議やクラス毎のミーティングで、職員の振り返りをもとに話し合い、今年度は行事の運営方法や主体性をもった保育を課題として、改善に向け取り組んでいる。 ・毎年第三者評価を受審し、非常勤職員も含め全職員で第三者評価の評価項目を活用して各自が自己評価した後、園の自己評価としてまとめているが、保育所の保育方針、園目標に沿った振り返りにはなっていない。 <p data-bbox="719 1615 975 1644"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年受審している第三者評価の自己評価に、保育所の保育の方針や保育目標に沿っているかどうか振り返り、非常勤職員も含め全員で取り組み、園の自己評価へとつなげることが望まれます。 ・昨年度の第三者評価の結果を、誰でも見ることができるように入ランスに置くことをお勧めします。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・設置法人の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準を明文化している。
- ・園長は可能な限り現場職員に権限を委譲し、緊急時園長不在時には担当職員の判断に任せて、事後、園長に報告することとしている。
- ・職員会議やクラス毎のミーティングなどで、業務改善の提案が無いか聞いている。
- ・園長は、年2回の面談以外にも随時職員と個別に面談し、職員の満足度・要望を確認している。メンタルヘルスチェックを受けたり、必要に応じ勤務希望調査書などを配付して、さらに意向を確認している。

評価領域VI 経営管理

評価分類

評価の理由（コメント）

VI-1 経営における社会的責任



- ・業務マニュアル内に就業規則があり、職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみを備えており、職員の休憩室に連絡先を掲示している。
- ・他施設での不正事案などの情報は、設置法人より随時連絡があり、園長会議などで検討して園に持ち帰り、職員会議で話し合っている。法人は職員に議案についてのレポート提出を求め、職員のモラルアップを図っている。
- ・牛乳パック、空き箱やトイレトペーパーの芯などの廃材をストックし、子どもたちの制作や、おもちゃや教材遊具の作成に利用している。夏祭りにはごみ削減のため、水筒・マイ箸持参を呼び掛けている。また、エコキャップ活動に取り組んでいる。
- ・職員は、チェック表を用いて節電を心がけている。
- ・環境への取り組みが保育課程に明記され、法人としての決算書・運営状況・リサイクルやエコへの取り組みについては、ホームページに掲載している。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



・入職時に職員に法人理念が書かれた冊子「明日への保育」を配付して、理念・基本方針を玄関や職員化粧室に掲示し周知しているが、特に園では理念や基本方針について話をしていない。

・園長は、日常の保育や会議での発言などを通し、また年2回以上職員と個別面談し、理念・基本方針などについての理解度を確認しているが、日々の業務に追われ職員になかなか浸透していないと感じている。

・保護者からの意見要望や、アンケートに寄せられた意見などについて、園長は保護者と継続して意見交換をしている。保育室の割り振りの変更など重要な変更時は、職員会議で討議を重ね、保護者に対しては理由や実施方法などを、年度末の保護者会や年度初めの懇談会で説明した例がある。

・お泊り保育、夏祭りや運動会の実施方法などについて保護者に事前にアンケートをとり、意向を確認して行っている。

・夏祭りや運動会などの園の大きなイベント時は、園内全職種の職員で取り組んでいる。

・社内研修に主任育成のコースがあり、人材育成が計画的に行なわれている。

・主任は担任を持つ他、各クラスを見回り個々の職員の業務状況を把握して、シフトの調整を行なっている。また個々の職員の様子を見て、指導・助言をしたり、園長に提案をしている。常に職員に声をかけるなどし、職員の心身の健康状態に気を配っている。

<コメント・提言>

・職員のモチベーション維持のため、職員と理念・基本方針を確認しながら、職員全員で共通理解・認識をもってサービスにあたることが求められます。

評価分類

評価の理由（コメント）

VI-3 効率的な運営



・設置法人で収集・分析した重要な情報は、園長会議で伝達され、全職員で共有している。

・園運営上の重要事項や、昨年度の第三者評価を受審する中で浮かび上がった課題は、職員会議で職員に周知して改善に向け取り組んでいる。立地上、津波を想定した避難訓練の実施と、屋上の環境整備が重要改善課題として認識されている。

・中長期的に園運営を展望する計画（五か年計画-園設備の改修、園としての基盤づくり、保護者との連携、地域・近隣園・小学校との交流、思いあう保育の実践）を定めているが、職員に周知されていない。

・設置法人で、運営について業界関連機関や専門家などから意見を収集し、将来を見据えた新たな運営やサービスプロセスについて常に検討している。また、それに見合った人材の育成を図っている。

<コメント・提言>

・中長期計画の存在を職員にも知らせ、全職員一丸となって取り組まれることが期待されます。

利用者家族アンケート

施設名:アスク馬車道保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数90名、全保護者78家族を対象とし、回答は49家族からあり、回収率は63%であった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は86%(満足39%、どちらかと言えば満足47%)であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

1) 保育内容－遊びについては、6項目の設問全体で肯定的な回答は90%で、特に子どもたちは戸外での遊びを楽しみ、自然に触れたり地域に関わるなどの満足度は、94%と非常に高い。

2) 保育内容－生活については、7項目の設問全体で肯定的な回答は86%で、おむつはづし以外では88%と、高い評価であった。

3) 園と保護者との連携・交流については、7項目の設問全体で肯定的な回答は88%と、高い評価であった。

4) 職員の対応については、5項目の設問全体で肯定的な回答は82%であった。

◇ 比較的満足度の低い項目

1) 保育園の快適さや安全対策については、4項目の設問全体で肯定的な回答は74%と低く、施設設備の項目では否定的な回答が43%、子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気については27%、不審者侵入対策については22%の否定的回答であった。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	11%	53%	22%	14%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	61%	39%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	51%	20%	2%	0%	27%	0%
	その他: 見学に行かなかった。上の子が在園しているので必要なし。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	45%	31%	4%	0%	20%	0%
	その他: されていない。					
園の目標や方針についての説明には	33%	39%	10%	0%	18%	0%
	その他: 覚えていない。口頭での説明は記憶にない。					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	51%	31%	6%	0%	12%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	43%	33%	12%	0%	12%	0%
	その他: 特に記憶にない。					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	51%	31%	10%	0%	8%	0%
	その他: 説明を受けた記憶がない。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	39%	49%	8%	4%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	43%	43%	10%	2%	2%	0%
	その他: 特に要望を発言する機会がない。					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	43%	45%	2%	4%	6%	0%
その他: まだ0歳なので不明。よく分らない。						
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	37%	61%	2%	0%	0%	0%
その他:						
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	37%	49%	6%	8%	0%	0%
その他:						
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	29%	61%	8%	0%	2%	0%
その他: 知らない						
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	35%	53%	8%	4%	0%	0%
その他:						
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	37%	51%	6%	4%	2%	0%
その他: まだ0歳なので病気がちである						

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	63%	27%	10%	0%	0%	0%
その他:						
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	49%	39%	6%	0%	6%	0%
その他: 話さないので分からない。						
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	57%	31%	8%	0%	4%	0%
その他: どのようにされているか知らない						
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	41%	45%	8%	0%	6%	0%
その他: どのようにされているか知らない。水分補給を頻回にやって欲しい						
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	41%	37%	4%	0%	18%	0%
その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。						
お子さんの体調への気配りについては	49%	39%	8%	2%	2%	0%
その他: 鼻水をこまめについてほしい。						
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	39%	51%	4%	6%	0%	0%
その他:						

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	22%	35%	33%	10%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	22%	51%	23%	4%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	19%	59%	14%	8%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	29%	59%	4%	8%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	47%	43%	4%	2%	4%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	57%	37%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53%	37%	4%	6%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	39%	41%	14%	4%	2%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	37%	51%	8%	2%	2%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	41%	45%	10%	2%	2%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	59%	31%	0%	0%	10%	0%
	その他: 依頼をしていないので分からない。利用していない。					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	39%	45%	14%	2%	0%	0%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	51%	35%	10%	0%	4%	0%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	49%	37%	0%	0%	14%	0%
その他:アレルギーはなし						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	41%	37%	12%	6%	4%	0%
その他:						
意見や要望への対応については	41%	35%	16%	4%	4%	0%
その他:						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	39%	47%	14%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスク馬車道保育園

◇0歳児

散歩

暑い日差しを避けて、ビル街の日陰になっている歩道のルートを選び、4人がバギーに乗り、歩くことが楽しくてしょうがない子一人が職員と手をつないで出発した。

街路樹のイチヨウの銀杏がひとつ落ちているのを見つけて児が拾おうとしたとき、「〇〇ちゃん ぎんなん さわらないよー 手がかゆくなっちゃうからね」と職員に言葉を掛けられ、手を引っ込めた。

石畳や、点字ブロックを乗り越えるときは、職員に「ガタガタするよー しっかりつかまってね」と声をかけられ、子どもたちはバギーのふちにしっかりつかまって、足を踏ん張る。途中疲れて座ってしまうが、また外を見たくて頑張って立ち上がろうとする子には「□□ちゃん つかれちゃった？」と尋ね、手を添えて立たせて「ほら なにがみえるかな〜？」と、子どもの目線を追っていた。

子ども達は、県警本部の、白バイ隊が出動するところに遭遇したり、屋上のヘリポートに離発着するヘリコプターの音に、目をキョロキョロさせながら、象の鼻公園までの散歩を楽しんだ。

遊び～食事

散歩から帰って、ひとりずつ沐浴台でシャワーを浴び、食事の準備ができるまでフロアの上で腹這いになって遊び始める。プラスチックのカラフルな網のボールを見つけた子は、手を伸ばしてズリズリと這っている。お座りの子も、転がるボールを眼で追っていた。

テーブル付チェアに座っている子と、テーブルに座る子の横で、職員が二人付いて介助している。自分でスプーンを持って口に運ぶが、まだ、口に入るよりこぼしてしまう子や片手にスプーンを持ちながら、もう片方の手で掴み食いする子、職員から食べさせてもらうのを待っている子などさまざまである。職員は子どもたちに手を添えながら、一人一人のペースに合わせて「食欲 もりもりね」などと言葉をかけていた。

午睡

隣の部屋に予め布団が用意され、食べ終えた子から職員にトントンされたり、体をさすってもらったりしているうちに眠りについた。職員はそばについて、子ども一人一人の様子を観察し、10分毎に呼吸チェックをしていた。

◇1 歳児

遊び

朝のおやつ後、手作りの布おもちゃを積み上げたり、転がるのを追いかけて遊んでいる子ども達に、職員が「今からテラスでプールをするよー タオルとお着替えを持ってきてね」と言うと、サーッとロッカーに向かう子、キョトーンとしたまま突っ立っている子、周りを見て気づき、慌ててロッカーに向かい、自分の着替えとタオルを両手に抱えてくる。テラスに行き、順番にタライでお尻を洗ってビニールプールで水遊びを始める。最初、水が顔にかかっぴっくりするが、職員は一人一人に、「だいじょうぶだよ」「きもちいいね〜」などと声をかけていた。そのうちコップで水を汲んだりあけたり、バシャバシャ水を叩いて水遊びに興じていた。

排泄

職員は、プールの前、食事の後パジャマに着替える際など、子どもの様子を見て、壁に向かって立たせたまま手早くおむつ（パンツ式）の交換をしていた。

◇2 歳児

排泄

「おはよー」と元気に挨拶を交わしながら、朝の合同保育の部屋からクラスに入ってくる。「トイレに行く人は行っておいで」と職員に声をかけられ、子ども達は目の前のトイレに入って行く。職員に迎え入れられて、一人ずつ順番に便器に座る。おやつを前に、子ども達の動きはスムーズだ。

食事

配膳が出来たら職員が、「ごはん・おかず・スープ・お茶ありますか」と声をかけ、給食の歌を歌って「いただきます」をして食べ始めた。プールの後で、おなが空いているとみえ、おしゃべりするよりも食べることに集中している。「先生お皿ピカピカになったよ」と、嬉しそうにお皿を見せる子どももいた。食事が終わった子どもは、ワゴンに食器をお皿、スプーン、コップと種別に戻し、歯磨きをして、順番に職員に仕上げ磨きをしてもらっていた。

◇3 歳児

遊び

テーブルで、子ども達が集まってカラフルな花形のパーツを組み合わせている。「私は 黄色とオレンジだけで作るの」と、色にこだわって花のように形づくりの子がいたり、「ほら こんなに長くできた」と、ひたすら長くつなげる子がいる。フロアでは、プラレールの線路をつなげるのにどうしたら陸橋にできるか、3

人の子があれこれ試しながらやっている。「これじゃないな」「こうやったら?」という子どもの様子を、職員は微笑みながら見守っていた。子どもの数が増えて線路の上で渋滞が起こると、「もっとこっちに広げよう」と言って、新たな線路が敷かれておおきな街が出来ていった。

◇4 歳児

食事

屋上で遊んで汗をかき皆がシャワーをしている間、シャワーをしない子が、お当番に代わって職員がテーブルを出すのを手伝ったり、台をふいたり、給食の準備をしている。皆が揃い配膳が整うと、「いただきます」をして食べ始める。

子ども達は話がはずみ、「あのどんぐりの製作ね、この間作ったの」と、壁の折り紙の作品を指差して教えてくれる。「そう、上手に出来たね。秋がくるからね」と調査員が応えると、「あき、ふゆ、はる、なつ、だっけ?」と他の子が言って、「あのね、外のイチョウが黄色になると秋なんだよ」と、窓の外のイチョウの木を見ながら得意そうに話してくれた。

話がはずみ過ぎ、横を向いてしまって手が止まるのを、職員からたしなめられる子どももいた。職員に励まされて完食できた子は、誉められて嬉しそうな表情をしていた。

◇5 歳児

散歩

子ども達は出発前に点呼を受けると「ハイ元気です」と返事をし、2人ずつ手をつなぎ「エイエイオー」と気合を入れて出発する。横浜公園に着くと、小型犬が2匹放されていたら飼主主に「遊んでいい」と了解をもらい、皆喜んで犬と暫く戯れていた。

子ども達は運動会のリレー向けに、最初一人ずつ走ってタイムを計る。次に2組に分けられると闘争心がわいてきたようで、「皆頑張るぞ、エイエイオー」「黄色組に負けないぞ、オー」と叫び、リレー競走中「頑張れ、頑張れ」と応援をし、勝つと喜んでいた。

その後、公園の複合遊具(滑り台、ロープ、ネット、山登りに見立てた坂)や鉄棒、追っかけっこなど、子ども達のやりたい遊びに夢中になっていた。

食事

子ども達は職員の声かけで、順番に食材の置いてある机からバイキング方式で料理を自分の食べたい量だけ取り、慎重に自分の席へ持って行く。全員準備が出来たらお当番の子の発声で「それでは皆さん 一緒に」「頂きます」と食べはじめる。

子ども達は汁物になめこが何個入っているかに興味を持ち、なめこが入っていると

「当たり前」「ぼくは何個入っていた」と会話がはずんでいた。数人の子どもは食事にBGMに合わせ歌を口ずさみ、職員から注意を受けていた。自分でお替わり行って好きなだけ食べている子もいたが、食が進まない子は職員から優しく促されていた。食べ終わった子は自分で下膳し、職員から「〇〇ちゃんなめこ汁2回お替わりしたの？」と聞かれた子が、得意そうに「3回だよ」と答えていた。

平成24年度第三者評価事業者コメント

アスク馬車道保育園

【受審の動機】

運営主体が変更し、三年を迎えました。保護者の皆様のご協力頂きながら、元気に子ども達が通える園となるよう努めています。今後、安定した安全な保育の提供が行えるよう、園の問題点や、保育運営の傾向、長所や短所を見直しを行っています。また「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を園理念として掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。

皆様にご理解ご協力いただきましたおかげで、保育園運営が軌道に乗りつつあるのではないかと感じています。今後も常に利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちや保護者に親しまれる園でありたいと考えております。

【受審した結果】

自己評価での個々や自園の見直しは、問題をクリアにしていく上で大変重要であり、新たな気づきが得られる良い機会となっています。全職員が同時期に「保育」を見直すことで、運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することができました。このことが、職員の意識の高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

評価の際は、今日行なっている保育に加え、これからの課題や地域に根差した保育園となるにはなど、客観的に指導していただきました。

今後の課題としては、①地域の特色を知りながら、今行っている交流を続けて行くこと、園として開放出来るものを提供出来る場を作っていくこと、②保育環境の安全及び美化の改善を図り、日々安心して過ごせる環境の充実を図ること、③地域の特色を再度見直し、子ども達の発達に沿った保育が行えるよう、職員が意欲的に知識を得てそれを共有し、働きやすい風通しのよい職場づくりをすること、の3点を挙げ、来年度向けて改善・充実を目指してまいります。また、利用者家族アンケートの結果からニーズや問題点を把握し、「利用者が本当に求める保育サービス」を提供していけるよう、職員一丸となって努力してまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。